

<2026年6月23日発表>

博多祇園山笠『十二番山笠ソラリア』奉納・披露

～「丞相名残之段」・「筑紫君磐井」の二つの物語を飾り山笠で表現します！～

- 西日本鉄道(株)では、2026年7月1日(水)から7月14日(火)までの間、当社が運営する商業施設「ソラリアプラザ」の1階イベントスペース「ゼファ」にて、博多祇園山笠の飾り山笠「十二番山笠ソラリア」を奉納・披露いたします。
- ソラリアの山笠は1991年の奉納開始以来、表(おもて)の飾りは歌舞伎の芝居や地域の歴史を主題とし、見送り(みおくり)の飾りは西鉄沿線や九州圏内の歴史をテーマとしてまいりました。本年の標題は、表が「道明寺丞相名残之段」、見送りが「筑紫君磐井」です。

【表】道明寺丞相名残之段
今年のソラリアの山笠は、十二番山で「堂山」とよばれ優美な飾り付けを施します。「丞相名残之段」は、菅原道真公が自ら彫った木像が、政敵・藤原時平の放った刺客から身を守るという奇跡の物語です。この場面は、菅原道真公の後半生を題材とした『菅原伝授手習鑑』の一段であり、同作は歌舞伎三大名作の一つとして、高い人気を誇っています。

【見送り】筑紫君磐井
今回は八女市福島周辺を本拠とした豪族・筑紫君磐井を取り上げます。『日本書紀』や『古事記』、『筑後国風土記』にも名を残す筑紫君磐井は、6世紀前半(527～528年)に大和朝廷に対して反乱を起こしました。『磐井の乱』と呼ばれるこの内乱は、日本古代史上最大の内乱ともいわれています。
- 今回は2025年11月にご逝去された博多人形絵師・置鮎正弘氏を偲び、「十二番山笠 ソラリア」の展示の横にメモリアルコーナーを併設いたします。故・置鮎正弘氏には2004年から21年間にわたり「ソラリア」の表飾りを担当していただきました。今回のメモリアルコーナーには置鮎氏来歴をまとめたパネルや、これまでの作品を展示する予定です。
- 当社が奉納・披露する飾り山笠は、天候を気にすることなくさまざまな角度からお楽しみいただけることから、毎年多くの来館者の方にご好評をいただいております。今年も、ぜひソラリアプラザ「ゼファ」に足を運んでいただき、福岡の夏の風物詩・博多祇園山笠の迫力を体感してください。

■ 2026年度博多祇園山笠 飾り山笠「十二番山笠 ソラリア」奉納・披露について

【スケジュール】	2026年 6月24日(水)10時～	棒締め
	6月27日(土)～29日(月)	飾りつけ
	6月30日(火)	総仕上げ
	7月1日(水)10時～	御神入れ
	7月1日(水)～14日(火)	奉納・飾り山笠披露
【場 所】	ソラリアプラザ1階イベントスペース「ゼファ」 (福岡市中央区天神二丁目2-43)	
【名 称】	十二番山笠 ソラリア	
【標 題】	表	: 道明寺丞相名残之段 / 博多人形師 西山 陽一氏
	見 送 り:	筑紫君磐井 / 博多人形師 下川 貴士氏
	山大工棟梁:	野中 方氏

■ 置鮎正弘氏メモリアルコーナーについて

【期 間】 2026年7月1日(水)～14日(火)

【場 所】 ソラリアプラザ1階イベントスペース「ゼファ」
(十二番山笠 ソラリア付近)

【展 示 内 容】 置鮎氏来歴紹介、当番法被・帯、山笠人形(予定)



(参考) 飾り山笠「十二番山笠ソラリア」 標題解説

【表】「道明寺丞相名残之段」

菅原道真公の後半生を題材に、歌舞伎および人形浄瑠璃として描かれた『菅原伝授手習鑑』は、^{すがわらでんじゆてならいかみ}『仮名手本忠臣蔵』^{か な でほんちゆうしんぐら}『義経千本桜』^{よしつねせんぼんざくら}と並び称される歌舞伎三大名作の一つとして、現在も高い人気を誇る作品です。

本作的一幕である「丞相名残之段」は、無実の罪により都を追われ、太宰府へ下向する途上の菅原道真公が、大阪・道明寺の地で養女・^{かりやひめ}苅屋姫との別れを遂げる場面を描いた、情感豊かな段として知られています。同段では、道真公が自らの姿を写して彫った木像が、政敵である^{ふじわらのしへい}藤原時平から差し向けられた刺客の手から身を守るという奇跡の物語が描かれ、人としての悲しみと、のちに「天神様」へと昇華していく存在としての象徴性が印象的に表現されています。

本年は、当社の拠点であり、「天神様」として親しまれる菅原道真公と深いゆかりを持つ天神の地にちなみ、その物語の中でも大阪を舞台とする「丞相名残之段」を表の標題として取り上げます。福岡県を基盤とする当社は、本年、大阪市内に「ソラリア西鉄ホテル大阪本町」を開業予定であり、道真公ゆかりの物語を大阪の地に重ねることで、地域を越えて受け継がれてきた歴史と文化のつながりを表現したいと考えています。

登場人物 ^{かんじょうしやう}菅丞相(道真公) ^{かくじゆ}覚寿 ^{ほうがんだいてるくに}苅屋姫 判官代輝国 菅丞相の木像

【見送り】「筑紫君磐井」

筑紫君磐井は、現在の八女市福島周辺を本拠とし、『日本書紀』『古事記』『筑後国風土記』^{ちくごのくにふんどき}にも名を残す、古代九州を代表する有力豪族です。一族は前方後円墳や武人像、装飾馬具など、特色ある埋葬文化を有していたことでも知られています。

「磐井の乱」は、6世紀前半(527～528年)に、筑紫君磐井が日本列島を統一過程にあった大和朝廷に対して反旗を翻した出来事で、日本古代史における最大級の内乱の一つとされています。九州の地に根差した勢力と中央政権との対立を象徴する事件として、現在も高い歴史的関心を集めています。

本題は、ソラリア山笠が長年取り組んできた「西鉄沿線の物語」を題材とするものです。筑紫君磐井ゆかりの地である八女市では、「磐井の乱」から1500年の節目となる2027年を迎えるにあたり、記念事業を展開しています。こうした動きとも呼応しながら、本題を博多祇園山笠の見送り標題として取り上げることで、西鉄バス沿線に連なる歴史的背景や地域の魅力を広く発信し、地域の賑わいづくりにつなげていきたいと考えています。

登場人物 ^{くずこ}筑紫君磐井、^{ものべあらかい}葛子(磐井の息子)、物部鹿鹿火

(参考) 飾り山笠「十二番山笠ソラリア」イメージアート

毎年、飾り山奉納に合わせ、表の表題をモチーフにしたイメージアートを制作しております。

【イメージアート】



作画:墨絵、陶墨画アーティスト 西元祐貴

世界的な注目を集める墨絵・陶墨画アーティスト。龍や侍などの古典的なモチーフや、スポーツ選手やミュージシャンなどのモチーフを、伝統的な技法にとらわれず、大胆さと繊細さを持ち合わせたタッチで描き、「躍動感」「力強さ」を追求した作品を展開。「陶墨画」は墨絵のごとく陶土の板に釉薬で描き、高温で焼き上げることによって、その躍動感が千年褪せない新しい現代アートである。

(主な活動歴)

2012年アメリカ・フロリダで開催された「EMBRACING OUR DIFFERENCES」にてワールドベスト作品賞受賞

2023年NHK BSプレミアム「美の壺」出演

2025年豊川稲荷宝物館「西元祐貴美術館」開館

2026年豊川稲荷大襖「新鳥獣戯画」墨絵制作中



本件に関するお問い合わせは、西鉄お客さまセンター(Tel050-3616-2150)まで